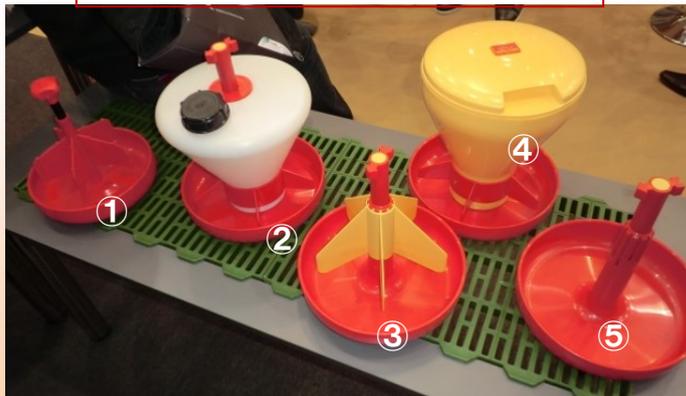


哺乳子豚に適した、たくさんはいるフィーダー

母豚の授乳期間が延びていますが、子豚のために選択された管理の修正も当然母乳で子豚を養う母豚には大きな負担です。離乳時点での母豚の消耗や負担をできるだけ少なくするためにも、分娩舎での子豚への餌付けは必須項目です。その後の餌の切り替えもスムーズに行くことから、餌食いが本格的になる 18 日令以降では、従来までの小さなフィーダーでは不十分です。ぜひ欧米でよく使用されているプラスチックのフィーダーを検討しましょう。

ロテナ ミニパンシリーズ (全体写真)



ホッパー部分を引き抜けば④が⑤になりますが、①と⑤の互換性はありません。また②のタンクは引き抜けないので④との互換性もありません。①と③の羽を除去することは推奨していません。

▶ ロテナ ミニパン(全体写真の⑤)

仕切り羽根がないので、同時に多数の豚が食べられます。軽くので床材に簡単に固定できます。最も一般的で推奨される哺乳期用フィーダーです。



ロテナミニパン

➤ **ロテシナ ミニホッパーパン**(全体写真の④)φ 27cm×32cm(H) 2kg+6kg

日令が進み、ミニパンでは不足してしまう農場では、ホッパー部に餌が多く入り、しかも蓋が付いていて、ねずみや昆虫の侵入も防げるミニホッパーパンがお勧めです。人工乳は基本的に鮮度や香りの保持が大切です。母豚にいたずらされない場所、さらに壁に接しない場所に設置することがポイントです。餌の出方については、ホッパーの内部で調整できるようになっています。



ロテシナミニホッパーパン

➤ **ロテシナ ミニテナー**(全体写真の②)

代用乳や電解質液の給与、飲水治療などにも便利なタンク式給与器。通常の水慣らしにも使えます。餌を食べさせるのが本当の狙いであっても、まずは水を飲むことに慣れていなければ餌は食べてくれません。



ロテシナミニテナー

その他の飼養管理情報

授乳期間が短いときは、餌付けは、離乳舎で行っていました。そこではなかなか食べない豚へのケア(見つけた豚に強制投与で餌を覚えさせる地道な作業:GPパウダーの項参照)が非常に大切でした。授乳期が伸びた現在、分娩舎の餌付けに移っていても基本的な重要性は変わりません。餌を食べていない豚にはしっかりと背中にクレヨンでマークしてケアしましょう。一般には15日令以降にならないければ目立って食べ始めないので、早い時期から強制的に餌を覚えさせる必要はありません。かえって害になります。あくまでも豚の自然の生理に基づいて、小さなうちはリキッドで代用乳を与えたりするくらいであまり神経質になる必要はありません。

子豚のために、母豚のためにやっていることです。いつまでも母乳に依存した豚は体が大きくても離乳舎で苦労します。こうした豚をできるだけ減らせるように時間を効率よく使いましょう。ほかの豚と競争して餌を食べる習慣が身に付けば、たちまち餌の量が不足してしまいますので、今回ご紹介したような大容量のフィーダーが必然的に必要になってくるはずです。たくさん食べさせることができれば、それだけ離乳後の各種トラブルも低減し、スムーズにスタートダッシュができるようになります。

参考情報: 養豚技術情報 2012.04 哺乳子豚の給餌量、適した給餌器は?

2017年8月 グローバルピッグファーム(株)